(五)

「中国新聞」(昭和四十四年三月十一日)

きょうから入居者募集

熊野などの県営住宅

県営住宅の二次募集が十一日から始まる

募集するのは一種二十三戸、二種三十四戸、一種住宅は、安芸郡熊野町の熊野団地内の平家建て五戸と、安芸郡安古市町下大町住宅の同十八戸（いずれも六畳、四・五畳、ダイニングキッチン）二種は熊野団地内四階建て百十六戸（六畳、四・五畳、ダイニングキッチン）と同二階建て十八戸（三畳、四畳、台所、食堂）。家賃は一種が四千九百円から五千七百円、二種が三千八百円から四千七百円、入居申し込みには所得制限があり、四人家族の場合年間総収入で一種は八十八万円まで、二種は六十四万円までが大まかな目安

申し込みは十四日までで、午前九時半から午後四時まで県庁地下の会議室で

(六)

「中国新聞」(昭和四十四年十一月二十七日)

競争率は七・五倍

県営住宅の入居抽選

さきに県が募集した本年度の県営住宅入居抽選会が二十六日午後県庁六階講堂で行なわれ四百四十七戸の入居者が決まった、この日は広島地区のあき家、新築住宅が対象だったが、平均競争率は七・五倍の狭い門、広島市内ではあき家一戸に五百五十人が押しかけるなど〝過密地区〟のきびしい住宅事情を反映し、抽選機を見守る表情は真剣そのものだった

抽選は広島市内、安佐郡祇園、安古市、佐東、可部の四町、安芸郡熊野団地の新築、あき家、安芸郡内のあき家を対象に行なわれたが、特に広島市内のあき家は第一種住宅が一戸平均五〇・五倍。第二種が五五・〇倍というきびしさ、祇園町や安古市などでも一〇倍二〇倍がザラで、県営住宅の入居は年ごとにむずかしくなっている

こうした中で安古市町の新築住宅だけは不人気で、六十二戸を募集した同町下大町住宅の簡易耐火住宅はわずか三十人、中層耐火住宅も四十七戸の公募に四十二人しか集まらず、いずれも抽選なしで入居が決まった。これは公募戸数が多い割りに、所得制限など入居条件に合う人が少ないためとみられる、県は不足分について近く再募集する

(七)

「中国新聞」(昭和四十五年九月二十八日)

県営熊野

広島県安芸郡熊野町

面積　三八七七五〇平方メートル

世帯数　一五〇〇世帯

完成年月　四十三年三月

「団地はいいのー、水銀灯はついとるし、防犯灯もよけいついとるし、夜でも昼のようじゃ、町の予算を団地にああまで使わんでもよかろうが—町の予算でやっているように誤解している人があるらしい、だれがそのようなことを言いふらすのやら」団地ニュースの最近号は、地つきの町民のやっかみに一矢報いている、だが広島県がモデル団地として造成しただけあって、設備は至れり尽くせり、上水道はもとより下水道も完備し、トイレは全戸が水洗、幅十六メートルの中央線道路はもちろんのこと、団地内の道路の舗装率は一〇〇%、プロパンガスは、都市ガス同様各戸に配管されている

小学校、保育所、郵便局、公園緑地、マーケットが計画的に立地し、そのうえ海田署熊野派出所までが団地内に最近移転してきた、居住人口五千五百人、団地というよりニュータウンと呼んだ方がぴったり、広島までバスで約一時間、呉まで四十五分、広島行きバスはラッシュ時には三分間隔で運転され、まずは理想的なベッドタウンといえる

通勤、通学者の九割が広島方面、一割が呉方面という、最終的には二千世帯の計画で、本年度中に二百五

十世帯程度ふえる見込み、県はことし最終分の分譲住宅を募集したが、五十戸に対してなんと応募者が二千人も殺到、宝くじそこのけの競争率を示した

団地の一角に、昨年四月〝団地の学校〟熊野第三小学校が開校した、児童数四百八十五人で六年生一学級、三、四、五年が各二学級、一・二年が各三学級と児童の構成は典型的なピラミッド型、伸び盛りの学校で、四十九年には現在の二倍以上の千人に達する予想、児童の両親が若いのが特色で、父親は平均三十六歳、母親が三十三歳という、児童の出身地別では広島市三二%、広島近郊二〇%、呉市一四%、県外一〇%で、地元がわずか一五%にすぎない

亀島清校長の話では、児童は社交性に富み、明朗で視野が広い代わり、勤労意欲に乏しい、とのこと、このような性格は〝団地っ子〟あるいは〝現代っ子〟の特性なのかもしれない、一木一草もない校地だったが、学校に緑を、という同校長の苦心で、緑らしきものがふえてきた、サツキなどの苗木を育成するとともに、腕のように細いサクラを周囲に植えこんだ、将来はクリ、スギ、クワなど多種類の樹木をびっしり植える計画

校舎は鉄筋三階二むね（約二千平方メートル）で、本年度中に九教室を増築、来年度は体育館が出来る予定となっているが、悩みは給食施設がないこと、同町の学校は全部給食をしていない、早く給食をしてほしい…という要望が強く、町は三年以内に給食センター方式で実施したい考えだ

団地自治会の活動が活発なことは有名、最近では団地内の自動車部品工場の移転を約束させた、町や県に大小さまざまな要求を突きつけ、重い腰をあげさせた、来年四月の町議選には団地から二、三人の立候補がうわさされている、しかし地元町民との〝断絶〟は否定できないようだ、「団地ばかりようなる」という地元町民の声とどのように調和をとっていくか、児玉義憲自治会長（四三）は「当面の問題は保育所の増設だが、それ以上頭が痛いのは地元町民との融和、時間は

かかろうが、日々努力を続けていく以外にありません」と言っている

(八)

「中国新聞」(昭和四十五年十月三十日)

墓地を忘れた団地の悩み　広島県熊野町

納骨に困り寺預けも

高い地価「ぜひ町営で」

二千世帯を収容できる広島県安芸郡熊野町の広島県営熊野団地で、墓地計画が忘れられていたため〃団地族〃から「死者を埋葬する所がなく、団地に霊がさまよっている」と切実な悩みが出ている

熊野団地は四十二年三月、広島県が総工費八億二千三百万円をかけ、五十六万五千平方メートルの住宅団地をつくった、いらい会社の独身寮を含め、千五百世帯が住宅を建設し「安住の地」として団地生活を始めているが、これだけの大世帯が住みながらそこに墓地がなく、町営の納骨施設もない、このため、家を失った住民は骨を安置することも出来ず、仏壇のそばに祭ったり、近くの寺へ預ける状態で、死者の霊は浮かばれないでいる

熊野団地自治会(児玉義憲会長)の調べでは新居が建ち始めた四十三年からこれまでに三十世帯で葬式があった、このうち、約半数は町外にある自分の墓に納骨したが、残り半数は長い間、家に置いたり、親類に無理をいって〃一時預け〃しているという、同町の西光寺(猪野了周住職)でも、住民からの強い要望でこれまでに五体を預かり、なかには一年半の預かりっ放しもある、こんな状態に追い込まれたのも、墓地計画町営墓地がないほかに地価が高くて、近くに墓地の用地を買い求められないのも原因、たとえ、用地があっても土地代と墓石で三十万円から五十万円はかかり、手を出せないと住民はいう

自治会では、このため町に墓地公園や納骨堂を造ってほしい、と要望し続けているが、同町の世良助役は「一般会計予算規模三億円余りしかない財政の町では

無理だ」と言う、一方、県も「自治法では町財政の中で建設するのが建て前だ」と主張する

熊野団地は、公園や緑地、各種公共施設などを完備した広島県下初のニュータウンとして発足しながらこの始末、しかし県は「団地の墓地設置は義務づけられていない」と今後も墓地をつくる考えは全くない、県下では、ここだけでなく墓地を持たない団地がほとんどで〝団地族〟は新たな悩みに直面している

(九)

「中国新聞」(昭和四十六年十月三十日)

公益法人に切り替え

熊野団地の共同墓地

個人が土地造成業者から買った〝花壇〟名目の土地に墓地をつくるのは「墓地埋葬に関する法律で認めにくい」と県海田保健所が二十七日、日広不動産(広島市富士見町、谷丈一社長)と安芸郡熊野町の熊野団地自治会(児玉義憲会長)代表を呼んで注意した問題をめぐり、児玉自治会長は二十八日、同保健所を訪れ、改めて疑問点などをただした、この結果、公益法人でも墓地新設許可の得られることがわかった

海田保健所の説明では、公益法人が運営の主体となれば、まず個人がいったん業者から分譲を受けた土地を法人に寄付し、寄付を受けた法人が保健所に許可申請をする、次いで個人が法人から永久使用権を認められる仕組みとなる、だから、実質的には土地所有権を得た場合と同じだという、このため熊野団地自治会は急いで、公益法人方式に切り替え、従来通り墓地の分譲あっせんをすることとした

(十)

「中国新聞」(昭和四十七年十月三日)

〝環秀〟で爆発的人気

熊野団地　広島県安芸郡熊野町

マイホーム　空から拝見

なにせ五十戸の分譲に対して二千人の応募者が殺到し

た人気団地、ここから広島行きのバスはラッシュ時で三分間隔、広島まで約一時間、呉までなら四十五分の近距離である、ベッドタウンとしては広島市周辺ではトップクラス、切り開かれた三十八万七千平方メートルの台地は県営、民営の約二千戸のマイホームでびっしり、団地内の道路は完全舗装、上下水道完備のうえ、全戸が水洗トイレというから、シ尿問題で歯の痛い広島市にとってはうらやましい話

しかし、悩みもある、爆発的な人口増で団地のために開校した熊野第三小学校では低学年の伸び率が高く、今では開校時の二倍以上の千人を突破する勢い、それに通勤時のマイカーによる交通地獄はパンク寸前だとか、それにしても昼間の団地内は静かですね、あき巣にはご用心、ご用心

〔47〕

熊野高校開設

「中国新聞」（昭和五十二年四月九日）

新設の高陽・熊野両高校でも入学式

広島周辺部の高校入学難を解消するため新設した高陽・熊野両高校の開校、入学式が八日あった、これで県下公立高校（全日、定時制合わせて八十三校）の入学式は全部終わり、約二万三千七百人の新入生が新たなスタートを切った

新設校の熊野高校（土井純三校長）はまだ屋内体育館など広い施設もなく、グラウンドも未整備のうえ雨も予想されるとあって、近くの安芸郡熊野町立第三小学校講堂での〃間借り〃開校、入学式では二百七十人の新入生と父兄を前に、土井校長が「第一期生として新たな歴史と伝統を築いていく責任と使命がある」と激励、式の後新入生たちは約十分間歩いて高校の門をくぐり、新しい教室の各ホームルームに分かれてやっと入学気分にひたっていた

また高陽高校（石橋忠弥校長）は二百七十一人の新入

生を抑えて、グラウンドでの開校、入学式、石橋校長は「ここに集まった生徒、教職員が一体となって、新しい良き校風を樹立していこう」とあいさつし、誠実、着任、努力を校訓にすることを互いに誓い合った

〔48〕　**戦後町議会議員名簿**（議席順）

編集者調整（昭和六十三）

◎印議長○印副議長カッコ内は同在任期間

昭和二十二年四月（二二名）

○中村義雄（昭和二十三年十二月～二十六年四月）
藤川徳太郎
中川重一
南田南主人
道土井徳三
真島亀三
○伊藤源三（昭和二十二年五月～二十三年十一月）
尺田徳太郎
◎世良英雄（昭和二十五年三月～二十六年四月）
的場俊行
城本勝司
仏円盛登
◎庄賀恵吉（昭和二十二年五月～二十五年二月）
宗盛得美
中本深美
神鳥長男
管田仁一
三村宏
中村軍七
前中保
立花春人
尺田公

昭和二十六年四月（一八名）

中川重一
藤尾繁美

○藤川徳太郎（○昭和二十六年五月～二十九年二月　◎昭和二十九年三月～三十年四月）
◎城本勝司（昭和二十六年五月～二十九年二月）
世良英雄
的場俊行
中本深美
尺田公
○伊藤源蔵（昭和二十九年三月～三十四年四月）
井原卓蔵
宮尾清人
立花春人
志々田次郎
神鳥長男
中村軍七
植木忠明
三村宏
大瀬戸隆
昭和三十年四月（一八名）
的場俊行
立花豊
大瀬戸隆
◎尺田公（昭和三十年五月～三十八年一月）
藤尾繁美
中原盛人
真畠亀三
世良忠義
井上松男
南崎量人
井原卓蔵
志々田次郎
中川重一
植木忠明
中村積
神鳥長男
○伊藤源蔵
世良英雄

昭和三十四年四月（一八名）

柄本森人
◎中川重一（昭和三十八年二月～三十八年四月）
○神鳥長男（昭和三十四年五月～三十八年四月）
大瀬戸隆
志々田次郎
中本次男
井上松男
中村積
五十免佐一
井原卓蔵
◎尺田公
南崎量人
世良英雄
川本英雄
世良忠義
台沖義間
伊藤源蔵
立花豊

昭和三十八年四月（一八名）

佐々木久兵衛
◎伊藤源蔵（昭和三十八年五月～四十六年四月）
尺田公
井原卓蔵
中村積
台沖義間
神鳥長男
橘昭二
大瀬戸隆
中本次夫
世良忠義
伊藤孝造
五拾免佐一
神鳥寛人
植木忠明
南田秀夫

○南崎量人（昭和三十八年五月～四十二年四月）
井上松男
昭和四十二年四月（一八名）
大瀬戸隆
五拾免佐一
神鳥長男
井上松男
○世良忠義（昭和四十二年五月～四十三年十二月）
面迫幸雄
南田秀夫
神鳥覚人
◎伊藤源蔵
中村積
尺田公
台沖義間
立道義則
中本次夫
南崎量人

○佐々木久兵衛（昭和四十四年三月～四十六年四月）
植木忠明
井原卓蔵
昭和四十六年四月（二〇名）
○五十免佐一（昭和四十六年五月～五十年四月）
中村積
南田秀夫
穏土正儀
児玉義憲
植木忠明
児島一夫
伊藤源蔵
尺田公
三村俊光
佐々木久兵衛
京面龍馬
◎神鳥長男（昭和四十六年五月～五十年四月）

田原誌郎
荒谷忠行
南崎量人
神鳥覚人
面迫幸雄
立道義則
中本深美
昭和五十年四月（二〇名）
五十免佐一
立道義則
神鳥覚人
三村俊光
遠部公
尺田公
穏土正儀
神鳥四郎
女夫池
京面龍馬
荒谷忠行
田原誌郎
南崎量人
南田秀夫
佐々木久兵衛
植木忠明
栗原君子
○面迫幸雄（昭和五十年五月～五十四年四月）
児島一夫
◎伊藤源蔵（昭和五十年五月～五十八年四月）
昭和五十四年四月（二〇名）
尺田公
穏土正儀
貞永奈音
神鳥覚人
◎伊藤源蔵
児島一夫
女夫池正人

梶山素行
○神鳥四郎（昭和五十四年五月～五十八年四月）
三村俊光
京面龍馬
梶川豊
植木忠明
南田秀夫
栗原君子
佐々木久兵衛
藤井登
槌山正孝
中村毅
野村律志
昭和五十八年四月（二〇名）
梶山素行
仏円大源
南田秀夫
佐々木久兵衛

貞永奈音
○神鳥覚人（昭和五十八年五月～六十二年四月）
槌山正孝
児島一夫
中村毅
穏土正儀
中村勝義
尺田公造
女夫池正人
梶川豊
◎京面龍馬（昭和五十八年五月～現在）
野村律志
栗原君子
神鳥四郎
伊藤源蔵
藤井登
昭和六十二年四月（二〇名）
◎京面龍馬

藤井登
女夫池正人
栗原君子
仏円大源
野村律志
伊藤源蔵
南田秀夫
馬上勝登
穏土正儀
上田春美
中原裕侑
貞永奈音
梶川豊
児島一夫
佐々木久兵衛
尺田公造
梶山素行
槌山正孝
○中村毅（昭和六十二年五月～現在）

〔49〕 統計報告事跡等

明治22年1月統計調査表控

①　（明治22年1月1日現在）

乗馬	駄馬	馬	牛	荷車大八車	〃大七車	〃中車	〃小車	人力車
3	8	29	402	—	—	—	1	—
0	16	—	10	—	—	—	—	—

②　人夫年齢別人口（　〃　〃　）

17年～30年	30年1ヶ月～45年	45年1ヶ月～50年	合　　計
355人	408	78	841

③　1日当りの使用賃価（明治21年12月中平均）

	1日使用賃価	1里使用賃価
乗　　馬	50銭	9銭
駄　　馬	35〃	6銭5厘
馬	30〃	5銭
牛	27〃	4銭5厘
人　　夫	20〃	3銭5厘
荷車小車	6〃	1銭
同要スル車夫	18〃	3銭

④　売買価格（　〃　〃　）

	乗馬	駄馬	馬	牛	荷車大八車	〃大七車	〃中車	〃小車	2人乗人力車	1人乗人力車
売買価	22円	17.50円	16.10円	15.20円	—	—	—	2.80円	—	—

⑤　徴発物件概算表（？）

戸数	人口		人夫	牛	馬	車輛
	男	女				
1,135	3,243	2,928	841	412	56	1

物産
米、麦、大豆、小豆、甘薯、毛筆

⑥　徴発物件調査表（明治22年）

戸数	各戸坪数	人口		人夫	官廨	寺院数
		男	女			
1,135戸	12,845坪	3,090人〔3,243を訂正〕	2,885人〔2,928を訂正〕	1,041人〔841を訂正〕	1個	2軒

学校数	水車場	職　工
2　軒	3　個	441

内　大　工　37人、木挽41人、泥工１人、石積工６人
　　桶　工　６人、鍛工12人、茅屋根葺66人
　　筆造工　272人

⑦　耕作及捕魚採藻業戸数（明治21年12月31日現在）

耕作業						
自作			小作			合計
専業	兼業	捕魚採藻兼業	専業	兼業	捕魚採藻兼業	
645戸	183	—	31	180	—	1,039

捕魚採藻業はなし。

自作数昨年ヨリ五戸減シ兼三十八戸減ス、小作数九十戸増え兼十戸増ス。

（朱書）布表合計前年弐十四戸ヲ減ルハ農ヲ止メ工就シモノナリ又自作減シテ小作ノ増えタルハ自作　負債償却ノタメ耕作地ヲ売却シ尚之レヲ小作スル□〔為か〕斯□〔如か〕増減ヲ生スルナリ

前年ニ大差アルハ前年ハ村外ニ出稼人数□アリ本年ハ……

⑧　耕作人員（　〃　〃　）

農業者					自作及小作人			
専業		兼業		合計				
男	女	男	女		自作	自作兼小作	小作	合計
1,290	967	640	55	2,952	1,935	1,418	93	3,446

⑨　田畑自作地小作地概算（　〃　〃　）

自作地段別			小作地段別		
田	畑	計	田	畑	計
3,045,620歩	1,022,621	4,068,311	1,301,004	255,700	1,556,704

⑩　人口の出入（　〃　〃　）

出						
外国行		管外へ出寄留		管内へ出寄留		陸海軍右営艦現役夫
男	女	男	女	男	女	男
6	—	60	35	33	19	6

				入			
監獄ニアル囚人		失踪		管外ヨリ入寄留		管内ヨリ入寄留	
男	女	男	女	男	女	男	女
3	1	91	14	4	6	41	20

⑪　筆製造

工業製品	製造地名	製造主	職工	1ヶ年製造額	
				数量	概価
筆	熊野村	凡 150人	凡 300人	凡 500万本	1万5千円
	前年分	凡 150人	凡 300人	凡17万5千本	1400円

⑫　牛・馬数（明治21年12月31日現在）

	種別／年齢	運搬用			農作			繁殖用			合計
		牝	牡	計	牝	牡	計	牝	牡	計	
牛	2歳以上	—	—	—	—	412	412	—	—	—	412
	当歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
馬	2歳以上	2	25	27	—	29	29	—	—	—	56
	当歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

乳用の牛は0。牛・馬ともに内種。

⑬ 農産物産額概算（明治21年）

	作付段別	収穫高		作付段別	収穫高
大豆	156,800歩	109,760合	藺	—	—
粟	179,600歩	179,600〃	小豆	375,000歩	30,000合
稗	—	—	蚕豆	76,800〃	76,800〃
黍	20,000〃	16,000〃	豌豆	21,000〃	22,110〃
蜀黍	15,000〃	15,000〃	菜種	—	—
蕎麦	255,600〃	127,800〃	藍葉	7,500〃	262,500匁
玉蜀黍	—	—	甘蔗	—	—
甘藷	698,500〃	104,775,000匁	蒟蒻玉	—	—
爪哇薯	—	—	楮皮	—	—
貫綿	55,600〃	1,112,000匁	碾茶	—	—
大麻	—	—	玉露	—	—
苧麻	—	—	煎茶	—	—
			番茶		546,400匁

その他、釜熬、紅茶、烏龍は0。

⑭ 諸製作及製造品（　〃　）

	数量	代価
木綿織物	4,100反	615円000厘
毛筆	5,000,000本	15,000円000厘
籠	950個	12円450厘

前年ニ対シ大差ヲ生スル以所（ママ）ハ本年ハ販路開ケ事業盛大ニシテ故ト兼業者モ他業ヲ止メ之レヲ専業トナシタルヨリ斯ル差ヲ見ル至レリ

⑮　麦作付反別及収穫石高概算（明治22年）

	畑		1反歩収穫高	田		1反歩収穫高	合計	
	本年作付反別	本年収穫高		本年作付反別	本年収穫高		田畑作付反別	田畑収穫高
	歩	合	合	歩	合	合	歩	合
大麦	965,000	366,700	380	285,600	171,360	600	1,250,600	538,060
裸麦	50,000	30,000	600	2,430,427	2,260,355	930	2,480,427	2,290,355
小麦	10,500	5,775	550	24,500	24,010	980	35,000	29,785
計	1,025,500	402,475	—	2,740,527	2,455,725	—	3,766,027	2,858,200

⑯　養蚕概況数（　〃　）

養蚕戸数	原紙立枚数	成繭見積産額	桑葉一貫目ノ価額	養蚕家婦女1日賃銭
7戸	1枚1分	1石 250合	4銭	ナシ

⑰　藍作概況

作付反別	一反歩ニ当ル葉藍見積産額
15,700歩	30貫

霖雨多く、虫類の発生によって充分な収穫が得られず、これは当年より創業されたものであり、平年の収益額はわからない。

⑱　徴発物件各戸ニ営業ニ係ル共給高概算表

	米	麦	秣芻	味噌	塩	醤油	漬物	薪	梅干	炭
各戸ニ係ル	102石	161石	—	140貫目	7石3斗	—	4斗樽70挺	1万2千貫	1石3斗	—
営業ニ係ル	—	—	—	ホ1貫目	2石	30石	—	400貫目	—	—

⑲ 米作概況表

種　別	作付反別	1反歩見積産額	1反歩ニ付平年ヨリ比較	
			増	減
早　稲	331 000	910合	—	540合
中　稲	2150 800	1石 050合	—	400合
晩　稲	1819 900	845合	—	505合
三　種	4301 700	2石 805合	—	1石 445合

霖雨にみまわれ、成育期間である7、8月において雨天が多く太陽の熱照が少なく凶作となった。早稲、晩稲は10分の6、中稲は10分の7を収穫するの見込なり。

⑳ 綿作概況表

	作付反別	1反歩見積産額	1反歩ニ付平年ヨリノ比較	
			増	減
早　綿	—	—	—	—
中　綿	50反	8貫	—	12貫
晩　綿	—	—	—	—
計	50反	8貫	—	12貫

㉑ 煙草作概況表

	作付反別	1反歩見積産額	1反歩ニ付平年ヨリノ比較	
			増	減
丸　葉	8反 114歩	30貫60匁	—	9貫 400匁
□〔標か〕葉	507歩	25貫	—	2〃 500匁
長　葉	—	—	—	—
計	8反 621歩			

㉒　米穀作付反別及収穫石高概算（明治22年）

	本年作付反別	本年収穫高	1反歩収積高
粳　　米	4,091,700歩	4,296,185合	1石 050合
糯　　米	210,000歩	242,550合	1石 155合
陸　　稲	—	—	
計	4,301,700歩	4,538,735	

明治27年統計報告跡綴

①　本籍人族別（明治26年12月31日現在）

	戸主		家族		棄児		合計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	計
華　　族	—	—	—	—	—	—	—	—	—
士　　族	5	—	2	10	—	—	7	10	17
平　　民	1,226	50	2,042	2,920	—	—	3,268	2,970	6,238
合　　計	1,231	50	2,044	2,930	—	—	3,275	2,980	6,255

②　牛・馬数（　〃　〃　）

	種別／年齢	運搬用			農作			繁殖用			合計
		牝	牡	計	牝	牡	計	牝	牡	計	
牛	2歳以上	—	—	—	4	369	373	—	—	—	373
	当歳	—	—	—	—	12	12	—	—	—	12
馬	2歳以上	1	22	23	2	23	25	—	—	—	48
	当歳	—	—	—	—	2	2	—	—	—	2

牛、馬ともに内種。乳用の牛は0。

③ 町村吏員表（　〃　〃　）

		人員	月俸	報酬金
村長	名誉職 10円以上 10円未満	1		2円
助役	〃	1		
収入役	6円以上 6円未満	1	3	
書記	6円以上 6円未満	6	18	
合計		9	21	3

④ 人口出入（　〃　〃　）

出				
外国行	他府県出寄留	他郡市出寄留	陸海軍在営艦者	他町村出寄留
17	104	83	10	18

		入		
囚人及懲役人	失踪人	他府県入寄留	他郡市入寄留	他町村入寄留
4	100	11	42	43

⑤ 米穀作付段高及収穫石高平年比較表

	種類	作付反高	収積石高	1反当リ収穫高
25年	粳米	4,114反 200歩	5,801石 022合	1石 410合
	糯米	181〃 000〃	235〃 300〃	1〃 300〃
	陸稲	—	—	—
	計	4,295反 200歩	6039石 322合	—

26　年	粳　　米	4,001反 110歩	1,356石 639合	564合
	糯　　米	165〃 020〃	84〃 186〃	510〃
	陸　　稲	—	—	—
	計	4,166反 200歩 〔4,166反130歩か〕	2,340石 825合	—
差　引	増 減	129反 〔 129反 070歩か〕	3,695石 497合	

作付反高が昨年に比べ減少しているのは、本年の旱害によるため。

⑥　織物産額概算（明治25年）

	何　　地		其　　他	
	数　　量	金　　額	数　　量	金　　額
白　木　織 （木綿織物）	—	—	1,800反	270円

昨年ニ比シテ減少〔セ？〕シハ木綿収穫ノ少ナキニ依ル尚旱害及流行病ノ為ニ織工ノ余暇ナカリシナリ

⑦　柿、生蝋、漆汁、椎茸、香茸産額概算（　〃　）

柿	生　　蝋	漆　　汁	椎　　茸	香　　茸
210貫	—	—	—	5貫目

⑧　田畑自作地小作地概算（明治26年12月31日現在）

自　作　地　反　別			小　作　地　反　別		
田	畑	合　計	田	畑	合　計
3,045反	1,000反	4,045反	1,300反	383反	1,583反

⑨ 桑茶園反別及採収高（明治25年）

	本年間		本年末現在反別	収葉高	1反収葉高	御内山野其他見積	
	新反別入	廃園反別				反別	収葉高
桑園	600歩	—	6,100歩	2,350貫	最高 269貫 最低 145貫	—	—
茶園	—	—	9,420歩	407貫	最高 560貫 最低 420貫	2,000歩	74,000匁

⑩ 製茶産額概算（明治26年）

碾茶	玉露	煎茶	番茶	釜熬	紅茶	烏龍	合計	製茶家数
—	—	—	407貫	—	—	—	407貫	258戸

⑪ 繭産額概算（ 〃 ）

春蚕					夏蚕				
繭	玉繭	屑繭	出殻繭	計	繭	玉繭	屑繭	出殻繭	計
2,980合	260合	80合	40合	3,360合	—	—	—	—	—
養蚕家数			8戸		養蚕家数			—	

⑫ 大豆外22種作付反別及収穫高概算

	作付反別	収穫高	1反歩収穫高	増減事由
大豆	170反	68,000合	400合	前年ヨリ5升減
小豆	50	4,800	96	2斗8升4合減
蚕豆	85	52,000	600	5升減
碗豆	20	12,000	600	5升減
菜種	7	2,800	400	8升減

粟	190	280,000	200	3斗5升減
黍	6	24,000	400	2斗8升減
蜀黍	13	5,150	500	2斗8升減
蕎麦	555	111,000	200	2斗減
藍葉	5	150,000匁	30貫	前年ニ同シ
楮皮	3	39,000	13	□□〔当年か〕打
煙草	5	150,000	30	13貫減
蘿蔔	210	10,500,000	50	20貫減
玉蜀黍	2	1,600合	8斗	7斗減
甘藷	425	8,500,000匁	30貫	58貫減
爪哇薯	2	100,000	50	10貫減
実綿	60	420,000	7	9貫減

⑬　物産収穫高（明治26年12月31日現在）

玄米	大麦	小麦	裸麦	監	味噌	醤油	漬物	梅干	秣芻	藁
3,256,639〔石か〕	508石	2,145升	16,535石	—	450貫	4石	1,200樽	15挺	—	216,212貫

⑭　（明治27年7月1日現在）

乗馬	駄馬	馬	牛	荷車大八車	〃大七車	〃中車	〃小車	〃人力車
2	15	10	350	—	—	7	2	—
1	3	—	10	—	—	2	1	—

⑮　人夫年齢別人数（　〃　〃　）

17年～30年	30年1ヶ月～45年	45年1ヶ月～60年	合計
325人	389人	80人	794人

⑯　1日当りの使用賃価（　〃　〃　）

	1日使用賃価	1里使用賃価
乗　　馬	1円	10銭
駄　　馬	60銭	8銭
馬	45	7
牛	45	7
荷積中車	6	1
〃　要スル人夫	35	6
〃　小車	6	1
〃　要スル人夫	35	6
人　　夫	40	6

⑰　売買価格（明治27年6月中平均）

	乗馬	駄馬	馬	牛	荷積大八車	〃大七車	〃中車	〃小車	2人乗人力車	1人乗人力車
売買価	25円	20円	15円	18円	—	—	4円	3円50銭	—	—

⑱　桑茶畑反別（明治27年6月30日現在）

	段　　別	見積反別	増減事由
桑　　畑	5,500歩	—	前年ニ比シ増減ナシ
茶　　畑	—	9,500	

⑲　春蚕（明治27年分）

飼養戸数	繭	玉　繭	処殻繭	屑　繭	計
14戸	2,000合	1,500合	150合	380合	3,030合

⑳ 麦（　〃　）

	作付反別				収
	大麦	裸麦	小麦	計	大麦
田	278,000歩	2,445,000歩	24,000歩	2,747,000歩	291,900合
畑	1,005,000	35,000	17,000	1,057,000	281,400

穫高			1反歩ニ付収穫高		
裸麦	小麦	計	大麦	裸麦	小麦
1,833,750合	18,000合	2,143,650合	1,050合	750合	750合
8,750	6,290	296,440	280	250	370

㉑ 徴発物件供給高（明治27年）

	米	麦	秣	味噌	塩	醤油	漬物	薪	梅干	炭
営業ニ係ル	2石	5石	—	5貫	1石	3石	—	300貫	—	—
各戸ニ係ル	50石	50石	50貫	50貫	10石	3石	50挺	500貫	1石	120貫

㉒ 米（明治27年分）

作付反別				収
粳米	糯米	陸米	計	粳米
40,851畝	1,810畝	—	42,661畝	45,753斗

穫高			1反歩ニ付収穫高		
糯米	陸米	計	粳米	糯米	陸米
1,909斗	—	47,662斗	1,120合	1,055合	—

明治28年度統計報告跡綴

① 戸口数（明治27年12月31日現在）

本籍人			現在戸数
男	女	合計	
3,251	3,004	6,255	1,295

② 人口出入（ 〃 〃 ）

出				
外国行	他府県出寄留	他郡市出寄留	他町村出寄留	陸海軍在営艦者
26	106	74	16	33

		入		
囚人及懲役人	失踪	他府県入寄留	他郡市入寄留	他町村入寄留
3	108	18	54	48

③ 学齢人員（明治27年）

修学							
就学						既卒業	
年末現員		本年卒業・退学者		本年半途退学者		退学者	
男	女	男	女	男	女	男	女
323	97	39	2	9	2	39	2

不修学							
未就学						未卒業	
貧窮		疾病		其他		退学者	
男	女	男	女	男	女	男	女
17	43	20	84	14	8	48	53

④　町村吏員表（明治27年12月31日現在）

		人　員	月　俸	報酬料
村　長	名誉職 10円未満	1人	3円	2円
助　役	〃	1人	3円	1円
収入役	6円未満	1人	3円	
書　記	〃	6人	18円	
合　　計		9人	37円	3円

⑤　安芸郡徴発馬匹賃価表

	1　日　ノ　賃　銭				1　里　ノ　賃　銭			
	乗　馬	駄馬	輓馬	操業者	乗　馬	駄　馬	輓　馬	操業者
賃　　金	100銭	50	—	20銭	10銭	5銭	—	5
宿泊料并ニ食料	20	20	—	18				

⑥　（明治28年1月1日現在）

乗馬	駄馬	馬	牛	荷積大八車	〃大七車	〃中車	〃小車	人力車
—	14	10	340	—	—	5	1	—
—	5	2	10	—	—	1	1	—

⑦　人夫年齢別人数（　〃　〃　）

17年～30年	30年1ヶ月～45年	45年1ヶ月～60年	合　　計
270	391	85	746

⑧　売買価格（明治27年12月中平均）

	乗　馬	駄　馬	馬	牛	荷積大八車	〃大七車	〃中車	〃小車	人力車
売買価	35円	25円	16円	20円	—	—	4円50銭	4円	—

⑨ 使用賃価額（明治28年1月1日現在）

	1日使用賃価	1里使用賃価
乗　　馬	1円10銭	15銭
駄　　馬	70	10
馬	50	8
牛	50	8
荷積中車	7	1銭 5厘
〃　要スル人夫	40	7
荷積小車	6	1銭 5厘
〃　要スル人夫	40	7
人　　夫	40	7

⑩ 食用及特用農産物（明治27年分）

	作付段別	収積高	増減事由
大　豆	1,700畝	692斗	前年ニ大差ナシ
小　豆	412	148	前年ヨリ減少
粟	1,700	580	前年ヨリ反別差ナシ、収穫増加セリ
実　綿	610	4,200百匁	前年大差ナシ
葉畑〔烟か〕草	85	4,100	前年ニ比シ反別及収穫ホ増加セリ
蕎　麦	1,510	453	前年ヨリ反別大減、尚収穫減額セリ
甘　藷	7,200	652,850	前年ニ比シテ反別ノ増加セリ
馬鈴薯	25	1,500	前年大差ナシ
蚕　豆	857	460	前ニ比シテ反別増加セシモ収穫減セリ
豌　豆	245	131	反別増加セシモ
楮　皮	30	423	前年同シ収穫減額セリ
菜　種　畑	13	40	〃
菜　種　田	50	25	

黍	60	24	反別ハ前年比シテ増加センモ収穫減セリ
蜀黍	130	65	〃
蘿蔔	2,100	105,000	〃
藍葉	50	1,500	前年ニ同シ
故蘿蔔	30	1,500	本年ヨリ播種セリ前年比例ナシ
牛蒡	20	600	〃

⑪　牛馬羊豚屠数（明治27年1月）

屠場数	1								
種別	頭数			斤量			価額		
	牝	牡	計	牝	牡	計	牝	牡	計
成牛	—	64	64	—	11,226斤	11,226斤	—	67,810銭	67,810銭
犢	—	—	—	—	—	—	—	—	—
馬	1	6	7	50	757	807	1,500	27,552	29,052
羊	—	—	—	—	—	—	—	—	—
豚	—	—	—	—	—	—	—	—	—

⑫　物産収穫高（　〃　）

玄米	大麦	小麦	裸麦	塩
45,662斗	2,733斗	68斗	8,500斗	—

味噌	醤油	漬物	梅干	秣芻	藁
5,500□〔斗か〕	50斗	830樽	5樽	—	227,000匁

⑬ 馬牛数（明治28年分）

		年末現数			左の内	出産	斃死
		牝	牡	計	乳用		
牛	内種	5	260	265	—	1	—
	雑種	—	50	50	—	—	—
	外種	—	36	36	—	—	—
	計	5	346	351	—	1	—
馬	内種	50	—	50	—	—	—
	雑種	—	—	—	—	—	—
	外種	—	—	—	—	—	—
	計	50	—	50	—	—	—

⑭ 織物（明治27年分）

機数	600台	
織工 男	—	
織工 女	610人	

		数量	価額
綿織	生木綿	3,000反	4,350銭
	縞木綿	1,000	85,000
	絣木綿	350	35,000
	蚊帳地	50	2,000
	女帯地頭〔類か〕	100	3,000
	其他ノ綿織物	500	25,000

⑮　蚕糸、真綿及蚕卵紙（　〃　）

製糸戸数		生糸		熨斗糸	玉糸	屑糸及屑物	真綿	蚕卵紙製造戸数	蚕卵紙製造枚数
製造所	自宅	器械取	其他						
—	2戸	—	100匁	200匁	500匁	20匁	150匁	4戸	4枚

⑯　質屋金利歩合（明治28年）

10円に対する			1円に対する		
平均	最高	最低	平均	最高	最低
2歩03毛66	2歩4厘	2歩	2歩066	2歩5厘	2歩

⑰　質屋の貸金（明治20年）

店数	年末現金		1年間の		1年間の		1年間の	
	貸出金額	口数	貸出金額	口数	受戻金高	口数	流れ金高	口数
3	436,080	327	842,300	601	544,250	443	32,970	61

⑱　牛馬羊豚屠数（明治□〔28か〕年1月分）

	頭数			斤量			価額		
	牝	牡	計	牝	牡	計	牝	牡	計
成牛	—	10頭	10頭	—	2,916斤	2,916斤	—	18,954銭	18,954銭
犢	—	—	—	—	—	—	—	—	—
馬	—	9	9	—	1,875	1,875	—	7,500	7,500
羊	—	—	—	—	—	—	—	—	—
豚	—	—	—	—	—	—	—	—	—

⑲ 春蚕（明治28年分）

飼養戸数	繭	玉繭	出殻繭	屠繭	計
14戸	3,000合	550合	150合	380合	4,080合

⑳ 麦（ 〃 ）

	作付反別				収
	大麦	裸麦	小麦	計	大麦
田	277,000歩	2,363,000歩	24,000歩	2,664,000歩	290,850合
畑	1,004,000	36,000	17,000	1,057,000	251,000

穫高			1反歩ニ付収穫高		
裸麦	小麦	計	大麦	裸麦	小麦
1,772,250合	18,000合	2,081,100合	1,050合	750合	750合
8,280	6,290	265,570	250	230	370

㉑ 桑・茶畑段別（明治28年6月30日現在）

	段別	見積反別	増減事由
桑畑	6,700歩	—	前年ニ比シ一反二畝歩ノ増作アリ
茶畑	—	9,500歩	前年比シ増減ナシ

㉒ （明治28年7月1日現在）

乗馬	駄馬	馬	牛	大八車	大七車	中車	小車	人力車
9	17	14	348 1□	—	—	6	3	—
3	4	—	〔12あるいは15か〕	—	—	1	1	—

（下列は朱書）

㉓　使用賃価（　〃　〃　）

	1日使用賃価	1里使用賃価
乗馬	1円	10銭
駄馬	60銭	8
馬	45	7
牛	45	7
荷積中車	6	1
同要スル人夫	35	6
荷車〔積か？〕小車	6	1
同要スル人夫	35	6
人夫	40	6

㉔　売買価（明治28年6月中平均）

乗馬	駄馬	馬	牛	荷積大八車	〃大七車	〃中車	〃小車	2人乗人力車	1人乗人力車
30円	25円	15円	18円	—	—	4円	3円50銭	—	—

㉕　徴発物件供給高（明治28年）

	米	麦	秣	味噌	塩	醤油	漬物	薪	梅干	炭
営業者ニ係ル	5石	5石	—	5貫	1石	71石	—	300貫	—	—
各戸ニ係ル	80石	70石	20貫	70貫	10石	3石	50挺	700貫	5斗	150メ

㉖　茶（明治28年分）

製造戸数	玉露	煎茶	紅茶	烏龍	番茶
258戸	—	—	—	—	407貫